

**資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録**  
**2014年度 第7回**

**報告題名 (title) : 非従来型雪害の被害発生要因と進行傾向に関する研究  
 —秋田県横手市の果樹園芸を事例に—**

報告者 (name)	小田嶋 裕幸	日時	10月30日 午後3時～
所属分野 (labo)	農業経営経済学	場所	第2講義室
座長	渥美 敦順	議事録担当者	藤井 隆太

**出席者**

盛田、米澤、冬木、高篠、石井、鈴木、スチ、宮里、タボウニ、山口、カイ、ユキウス、西田、渥美、江守、藤井、町田、青木、黒岩、嶋倉、秀、武居、畠山、カゲル、リコガ

**報告要旨 (Abstract)**

コメ中心の秋田県の農業生産構造は東北他県と比較しても縮小傾向が強く、これを打破すべく果樹園芸の振興が目標の一つに掲げられている。秋田県内で果樹園芸の盛んな地域は県南部にある横手市だが、同市は近年雪害が頻発しており、かつ農業被害は果樹園芸に関わるものに集中している。このため、同市における雪による農業被害について考えることは極めて重要である。

過去の検証から、今日における雪害（雪による農業被害）とは「1月から2月にかけて」「中期的な降雪が続くことで」「想定以上の大量の雪が堆積・変質することで発生する」と定義することができる。しかし、横手市で平成25年度に発生した雪害は11月中旬の降雪を発端とする点など、この定義には当てはまらない形で被害が発生・進行している。

本研究の目的は、平成25年度の横手市の例を中心に、非従来型の雪害の被害の発生要因と進行傾向を検証し、それらに合った雪害対策や営農手法について考察することである。

現時点では、横手市の過去の気象データと雪による農業被害の規模を比較するとともに、果樹農家の年間スケジュールの変化と被害発生の因果関係についても検証している。特に、ブドウ農家に関しては栽培品種の早生種から晩生種への更新によって収穫の時期が遅くなっている点などから、その後の「冬支度」のあり方の変化について目下調査中である。

## 質疑・応答(Q & A)

**黒岩**：ぶどうを中心に調べるといったことが、横手市の果樹におけるぶどうの生産割合はどのくらいなのか。

**小田嶋**：秋田県全体の果樹の生産割合はりんごが高い。横手市もそれに順ずる形で、りんごの生産割合が多くなっている。雪害の被害額もりんごの方が高い。

**黒岩**：雪害の被害額のメインはりんごということではないのか。なぜぶどうに着目したのか。

**盛田**：ぶどうをやるというのであれば、農協の系統外の出荷がどのくらいあるかだとかのある程度の内容がわかるので農協や市役所に聞いた方がいい。

横手市でのぶどうの生産額や栽培面積などの基本的なデータを持っておかないといけない。

**米澤**：果樹園の位置、降雪量、地形などを空間的に見て比較すると議論を深める事ができそうだ。

**高篠**：平成 25 年の被害額の内訳は何月の被害がどれくらいというデータはあるのか。

**小田嶋**：12 月 31 日までの被害と 1 月 1 日以降の被害とで統計をとっている。前半(11 月の雪害がメイン)は約 3 億円となっており、後半は約 10 億円である。

**高篠**：後半の被害額の方が大きいという事でいいのか。

**小田嶋**：雪害は雪が降った時期に挙げられるというよりもその後に被害が明らかになる事が多いので、11 月に起こった被害でも 1 月以降の被害としてデータ上ではなっている可能性がある。

**高篠**：農家の営農とは関係ないという結論にはならないか。

**小田嶋**：栽培スケジュールの変化により、雪害対策への時期的な遅れが生じている可能性がある。

**高篠**：この時期にどのくらいの農家が栽培していたのかというのを検証するのか。

**小田嶋**：被害があった農家と被害がなかった農家との間に営農の仕方に違いがあったのかを検証する。

**冬木**：農家の労働力の賦存状況に関係がある気がする。

農家戸数や果樹の栽培面積といったデータがないので基礎的なところをちゃんとやった方がいい。

**盛田**：雪害の被害を受けるメカニズムが市場対応による品種の転換によるものというのは面白い。

基礎的なデータを基にいかにも実証するのかというのが大事だ。